

## ■ 概要

平成23年5月、百舌鳥・古市古墳群の世界文化遺産の早期登録実現に向けて、大阪府、堺市、羽曳野市、藤井寺市の4者が一体となって取り組む体制として、百舌鳥・古市古墳群世界文化遺産登録推進本部会議を設立。今回がその第4回の会議。

会議では、平成24年度事業報告が行われるとともに、平成25年度の事業計画案などの議案が諮られ、承認された。また、世界遺産登録に向けた工程や、推薦書原案の概要、世界遺産登録後のまちづくりを見据えた「(仮称)百舌鳥・古市古墳群を活用した地域活性化ビジョン(素案)」について了承された。

## ■ 会議要旨

### 1. 開会(会長・松井大阪府知事挨拶～総山副知事代読～)

第4回百舌鳥・古市古墳群世界文化遺産登録推進本部会議の開催にあたり、一言ご挨拶申し上げます。

平成23年5月の推進本部会議の設立から約2年、大阪府と堺市、羽曳野市、藤井寺市の4者が一体となって、百舌鳥・古市古墳群の世界文化遺産登録実現に向けて取り組んできた。

平成25年度は、平成27年の世界文化遺産登録をめざす我々にとって、まさに勝負の年。他に国内候補がある状況の中で、まずは7月頃に開催される国の「世界文化遺産特別委員会」で、日本の推薦候補資産に選ばれ、登録実現へのステージを1つ前へ進めていかなければならない。そのためには、資産の普遍的価値やその保存管理について示した推薦書の原案を7月までに作成し、国に提出することが不可欠である。

登録実現には、地元住民や府民でそして全国的な理解と応援が重要。地元団体や民間等との連携をより一層強化して、オール大阪で登録機運の醸成に向けたプロモーション活動に取り組んでいきたい。

百舌鳥・古市古墳群は、まさに大阪が世界に誇るべき貴重な歴史遺産。世界の宝として、将来にわたって守り受け継いでいくべき。

大阪で初の世界文化遺産の誕生を契機に、魅力と活力のあふれる大阪を実現させるべく、我々4者がさらに一丸となって、登録実現に向けて取り組んでいきましょう。

※出席委員紹介

### 2. 議事(本部長の竹山堺市長が議事を進行)

〔議題1〕平成24年度事業報告(案)と決算見込み(案)について

- ・資料「議題1-①」「議題1-②」に沿って事務局が説明。

(総山副知事)

- ・東アジアの類似資産として中国と韓国の資産を調査したとのこと。他資産との比較研究は非常に重要であるが、今回の調査をふまえ、百舌鳥・古市古墳群の価値をどのように整理するのか。

(事務局)

- ・中国では「明清の皇帝陵墓群」、韓国では「慶州歴史地区」と「朝鮮の王陵」について資産のあり方、資産保護の仕方について調査を実施した。資産価値の面では、百舌鳥・古市古墳群のような規模や形状の異なる墳墓の構成は認められなかった。資産保護の面では、特に「朝鮮の王陵」の調査で、資産周辺の緩衝地帯で厳しい高度制限が行われていることがわかり、百舌鳥・古市古墳群と同様に「都市部にある資産」の保護手法として大変参考になった。

\* 議題 1 について了承。

(議長)

- ・最終の決算(案)については、後日(出納整理期間後)、各委員に報告し、評決をいただく予定。

[議題 2] 平成 25 年度事業計画(案)及び予算(案)について

- ・資料「議題 2-①」「議題 2-②」「議題 2-③」に沿って事務局が説明。

(北川市長)

- ・地域の取組みについて、ご報告させていただく。本市の市民団体である NPO 法人フィールドミュージアムトーク史遊会の細見会長が中心となり「古墳のある風景」という写真集を発行するなど、我々の世代に近い方々が積極的に活動していただいている。
- ・市民の機運醸成は重要であり、応神天皇陵古墳や史跡等を積極的に活用していくことが大事と考える。羽曳野市では、応神天皇陵古墳の周辺に、古墳の紹介等が可能な教育施設を建設中で、今春オープン予定。そういった施設を通じて、古墳に対する知識を養っていただきたいと思う。加えて、本市としては、地元の皆さんが、古墳も含めて自分の住んでいるところをいかに知っていただくかが重要であると捉えており、平成 25 年度より、地元や地域の PR を行っていただけるような取組みとして、駒ヶ谷を中心として、軽トラック市を年 10 回程度開催しようと考えており、先日、通法寺の史跡でスタートさせたところ。

(竹山市長)

- ・首都圏プロモーションも実施する必要があると考えている。堺市の東京事務所では、堺に縁のある人を招いた「東京・さかい交流会」を実施している。その中で、百舌鳥・古市古墳群の世界文化遺産登録に向けた機運醸成を行っている。今年も、5 月 10 日に、日本サッカー協会の川淵最高顧問を含む著名人をお呼びするので、その時には積極的に PR し、日本全体で(百舌鳥・古市古墳群の)世界遺産の取組みを知っていただきたいと考えている。

\* 議題 2 について了承。

[議題 3] 百舌鳥・古市古墳群の世界文化遺産登録までの工程(案)について

- ・資料「議題 3-①」「議題 3-②」に沿って事務局が説明。

(國下市長)

- ・平成 27 年度を目標としている他の 4 つの資産の状況は。

(事務局)

- ・長崎県・熊本県にある「長崎の教会群とキリスト教関連遺産」については、既に推薦書の原案を提出していると聞いている。「九州・山口の近代化産業遺産群」「北海道・北東北を中心とした縄文遺跡群」「飛鳥・藤原の宮都とその関連資産群」の3件については、まだ提出していないと思われる。

(國下市長)

- ・(平成27年度の登録を目標とする)他の候補資産と比べて、百舌鳥・古市古墳群の特徴や位置づけとは。

(事務局)

- ・百舌鳥・古市古墳群は、これまで日本の世界遺産が対象にしたことがない時代の資産であり、「視覚に訴えられる巨大な古墳が群をなして存在する」という点で、海外のすでに世界遺産になっている王墓と比べても類がなく、海外の世界遺産の専門家からも注目されている。

\* 議題3について了承。

〔議題4〕(仮称)百舌鳥・古市古墳群を活用した地域活性化ビジョン(素案)について

- ・資料「議題4-①」に沿って事務局が説明。

(総山副知事)

- ・世界遺産を考える時に、保全・活用が重要。日本・全人類にとって重要なものであるものとして、保全するとともに、これらの資産を地域の誇りだけでなく、世界の誇りにするため、世界に訴えていくことが重要である。そういう中で、こういった地域活性化ビジョンを策定することは大変良いことだが、このような取組みをしている資産は、他にもあるのか。

(事務局)

- ・推薦書(の作成)と同じ時期に策定された例はない。一般的には資産保護のためのアクションプランが作成されているが、その内容をまちづくりにまで広げたものはない。推薦書の提出にあたって必須のものではないが、資産を守る背景として、複数の自治体がまちづくりの観点でビジョンを共有していることは、イコモスによる現地調査などの点で大きな強みとなると考える。

\* 議題4について了承。

〔その他〕平成25年度に向けた各市長の意気込みについて

(北川市長)

- ・今ある資産を活用し、PRしていくことが重要。そういった意味では、竹内街道1400年記念事業が今月末から動き出し、(街道の)沿道で季節ごとにイベントを開催しようとしているので、藤井寺市にも隣接市として関わっていただき、世界遺産登録に向けた取組みをPRしたいと考え

ている。

(國下市長)

- ・藤井寺市においては、市民の皆さんに古墳群が持つ価値への理解を深めていただき、世界遺産登録に向けた機運の醸成に努めてきた。
- ・あわせて、景観条例の制定や、羽曳野市と共同で保存管理計画の策定に取り組むなど、登録に必要な条件整備を進めてきた。
- ・平成25年度はいよいよ、推薦書の提出、国内候補資産決定といった大きな節目であり、大阪府、堺市、羽曳野市とともに、「百舌鳥・古市古墳群を世界遺産に」という強い思いを新たにして取り組んでいきたい。

(竹山市長)

- ・今後、百舌鳥・古市古墳群を各市のまちづくりに活かしていくことが重要。
- ・また、地域に住む者のプライドや誇りを高めていくことが、世界遺産運動に必要なことから、民間協議会の設置に向けて、関空や鉄道会社、地元の商工会や観光協会を巻き込んだ、大きなムーブメントを起こすことが必要。
- ・大阪だけでなく、オール関西、オールジャパンの動きでやっていくことが、ユネスコに世界遺産であると認めていただくことに繋がると考える。そういう意味で、関西、日本全体が盛り上がるためのプロモーションが必要であり、大阪府と3市が一丸となって取り組んでいきたい。

(総山副知事)

- ・3市長から、力強いご発言をいただいた。知事も、府議会において、積極的にアピールしていきたいという答弁をしている。平成25年度は正念場であるので、4者が連携して、取り組んでいきたい。

(議長・竹山市長)

- ・それでは、正念場である25年度も、4者が一丸となって頑張っていきましょう。

以上